

来年の米作りは、秋の土づくりから！

◎高品質・良食味米の安定生産には「土づくり」が重要です！

1 稲わらの秋すき込み

- ◇稲わらの秋すき込みは、堆肥と同等の土づくり効果が期待できます。
- ◇腐熟の促進を図るため、地温の高い収穫後にできるだけ早く行い、遅くとも10月中旬までに完了しましょう。
- ◇すき込みの耕深は、作業能率や腐熟促進等を考慮して、5～10cmの浅うちにしましょう。



2 土づくり肥料や堆肥の散布

- ◇土壌分析結果に基づき、土づくり資材等を施用しましょう。
- ◇また、つきあかり、いただき、あきだわら等の多収性品種は、土壌養分を多量に収奪するため、土づくりを積極的に行いましょう。

【JA北魚沼からの情報】

- JAの土壌分析(10月末まで受付)を実施し、土づくりに取り組みましょう。
- 近年の分析結果では、ケイ酸や鉄が不足傾向です。
- 以下の散布例を参考に土づくりに取り組みましょう。

散布例① リン酸・ケイ酸・苦土・鉄・腐植酸を含む総合的な土づくり
魚沼ロマンアイアンスター:60～80kg/10a

散布例② ケイ酸を中心にリン酸・苦土・加里・腐植酸を含む土づくり
魚沼ロマンソイルキーパー:40kg/10a

散布例③ ケイ酸を中心に加里・苦土・リン酸を含む土づくり
越後の輝きソイル米スター:30～45kg/10a

散布例④ 堆きゅう肥による土づくり
有機堆肥「魚沼げんき」:400～800kg/10a

新潟県からのお知らせ ～本年産米の放射性物質検査結果～

魚沼市内の本年産米を検査した結果、放射性セシウムは検出されませんでしたので、通常どおり出荷・販売できます。ご協力いただき、ありがとうございました。